



開催中

《ピースあいち特別展》「水木しげるの戦争と新聞報道」

2019年7月16日(火)～9月1日(日) (最終日は15時まで)

漫画「ゲゲゲの鬼太郎」などで人気の漫画家 水木しげるさん(2015年没、享年93)は、21歳のとき、陸軍二等兵として南方の激戦地ニューブリテン島(ラバウル)に送られ、戦場で片腕を失いました。そして、「戦争を体験した漫画家として、残さなければならぬ」と、自身の戦争体験をもとにした多くの漫画を描きました。



本展は、『総員玉砕せよ』『水木しげるのラバウル戦記』などの水木作品で、南方戦線を中心としたアジア・太平洋戦争をたどります。さらに、水木さんの「出征前手記」や当時の写真、戦地からの手紙、「私の履歴書」などで、死と向き合った若者の苦悩、強烈な戦地体験、その後の人生観にも迫ります。

一方で、当時の新聞は、戦争をどのように報道したのでしょうか。「ニューヨーク・デーリー・ニュース」「ロサンゼルス・タイムズ」を含む実際の新聞記事の展示から読み取っていただけだと思います。今年の夏は「ピースあいち」で、最前線の兵士が見た「戦場」と、言論統制下の新聞が伝えた「戦時」を体感してください。

協力：水木プロダクション ニュースパーク(日本新聞博物館)
中日新聞社

※夏休みのお子さんのために、「子ども用ガイド」を用意しています。親子でクイズを解きながら展示を観ていくことができます。
※会場では、ゲゲゲの鬼太郎グッズや書籍も販売しています。

- ◇入場料 大人600円 小中高生200円
(入館料大人300円 小中高生100円を含む)
- ◇休館日 月曜日(会期中は日曜日も開館)



©水木プロダクション

■ 展示概要

○日中戦争から南方進出へ

①太平洋戦争突入

- 真珠湾攻撃 『コミック昭和史 3巻』『トベトロとの50年』より
- 南方戦線の戦況(1942年) 『コミック昭和史 3巻』『コミック昭和史 4巻』より

②水木しげるの戦場へ

- 出征前の手記／作品「赤紙がきた場面」「軍装の兄と」／写真「鳥取連隊入隊前」「父の写真」／戦地から父に宛てた軍事郵便
- ③水木しげるが描いた戦争
 - 作品『ラバウル戦記』『総員玉砕せよ!』から

④南方戦線の日本兵一報道から

- ⑤終戦への道のり一報道から
- 水木しげる「私の履歴書(9)～(15)」
- 地元の新聞報道(1942年～1945年)
- 作品「運命のガダルカナルの戦い」「やがて戦い終えて」ほか



■講演会

「父 水木しげるの戦争を語る」

原口尚子さん(水木しげるの長女)

7月20日(土) 13:30～15:00

1階交流のひろば

水木しげるさんには、『娘に語るお父さんの戦記』の著書もあります。娘ならではの視点で、「水木しげるの戦争」をお話しいたします。
参加費／大人1000円 小中高生300円
(入館料や特別展入場料とは別途必要)
要予約TEL 052-602-4222(定員になり次第締切)



■講演会

「妖怪ぬりかべと水木しげるの戦争体験」

蛸島直さん(愛知学院大学文学部教授 民俗学)

8月17日(土) 13:30～15:00

*入館料または特別展入場料でご参加いただけます。

報告

企画展 「熱田空襲」—6月9日 愛知時計電機・愛知航空機への空襲

8分間で奪われた2000人のいのち

3月5日(火)~5月5日(日)



展示風景



越智久美子さん講演会(4月13日)

今年初めての試みでしたが、企画展に「戦争と平和」を考える東邦高校美術科生徒の作品を展示することができました。生徒さんのギャラリートークもあり、来館者から若い世代の感性のすばらしさを讃える声がありました。

また、安城歴史博物館からお借りした6月9日熱田空襲体験絵とお二人の体験者証言ビデオは、資料だけでは語りつくせない空襲当時の状況を伝えてくれました。さらに、大正時代に愛知時計電機が製造した航空機の本製プロペラを個人の方から寄贈していただくこともできました。ご協力いただきました皆様にお礼申し上げます。

来館者のアンケートから

■東邦高校美術科の生徒たちの「制作を通じて自分も戦争を伝える役割を担えることに気づいた」という言葉が印象的でした。戦後生まれであっても、誰もが戦争の伝え手になれるのだと思いました。(27歳)

■熱田区で育ち、区内の小学校へ通い、祖母や叔父、両親やその知人の方から熱田空襲のことを聞いていましたが、こうして詳しくいろいろな方向から示された現実の記録に接し、大変な衝撃を受け深く感じるものが多くありました。また、高校生の方々の作品を拝見し、若い豊かな感受性あふれる思いに感無量です。(73歳)

■戦争中、私の祖父は大阪機械製作所名古屋工場にて勤務していました。愛知時計の近くだったので空襲を日撃していたかもしれません。また私は高校が惟信でした。この爆撃で亡くなった生徒(私の先輩・旧制惟信

中学)がいたわけで、悲しいことばかりです。(60歳)

■母は愛知航空機に勤めており、九死に一生を得たと聞かされていました。わずかな行動の差で、今の私もこの世には生まれて来なかったかもしれず、二度とあのような時代にははいけなそう思いました。(56歳)

■以前熱田に住んでいた時、散歩で見かけた空襲の石碑が気になっていました。今回詳しく知ることができて勉強になりました。(58歳)

■よく通る道、橋でこんな悲しい出来事があったことが、今の平穏な白鳥橋周辺では、想像すら難しいです。(50歳)

■おまわりさんが描かれた絵と文は初めて見て大きな衝撃を受けました。戦争の足音が聞こえて来そうな昨今、リアルに戦争を知ることがとても大切だと改めて思いました。(64歳)

予告

2019年 夏の戦争体験語りシリーズ

■ 8月1日(木)~15日(木) 午後2時~3時(ただし8月5日(月)・12日(月)を除く。) ■ 1階交流のひろば

語り手：ピースあいち語り手の会・語り継ぎ手の会メンバー

参加費 入館料(大人300円・小中高生100円)または入場料(特別展大人600円・小中高生200円)が必要です。

月日	語り手	体験の概要	月日	語り手	体験の概要
8月1日(木)	斎藤 孝さん	「空襲、学徒動員」	8月9日(金)	原 宜子さん	「国民学校生活」
8月2日(金)	平田 和香さん	「満蒙開拓者の戦前戦後」	8月10日(土)	望月 菊枝さん	「空襲、学徒動員」
8月3日(土)	今村 實さん	「学童疎開、名古屋空襲」	8月11日(日)	八神 邦子さん	「学童疎開」
8月4日(日)	石川 薫さん	「名古屋空襲」	8月13日(火)	萩原 量吉さん	「東山ぞうれっしゃ」
8月6日(火)	木下 富枝さん	「広島原爆」	8月14日(水)	小笠原淳子さん	「学童疎開、神戸空襲」
8月7日(水)	島村 悦子さん	「学童疎開、神戸空襲」	8月15日(木)	栗本 伸子さん	「植民地朝鮮、教育」
8月8日(木)	高山 孝子さん	「空襲、疎開」			

*各日とも、語り手の体調などにより変更することがあります。

報告 企画展「沖縄戦と子どもたち」

5月21日(火)～7月6日(土)



昨年に続いて今年も、三重県津市から中学生200人近くが来館しました。来年、修学旅行で沖縄へ行くための事前学習とのことでした。中学生たちは、沖縄の戦争体験を語り継いでいる愛知県と神奈川県に住む姉妹から、隠れていたガマから奇跡的に生還した二人の父親の話を聞き、その後、3階で展示中の「沖縄戦と子どもたち」を見学しました。引率の先生は、「来年、沖縄へ行ったとき、子どもたちが『ピースあいち』で学んだことを思い出してくれることを期待している」と話しました。

この日は、もう一つお話がありました。中学生が「ピースあいち」を見学する様子を、NHK那覇支局のテレビクルーが取材したのです。語り継ぎ手の2人の姉妹が毎年6月23日の沖縄慰霊の日に沖縄へ行っている縁で、2人の取材ともども、わざわざ沖縄からの取材となりました。クルーの一人は、名古屋の「ピースあいち」で毎年のように沖縄展を開催していることに驚き、展示を見て「沖縄の戦前、戦時下、戦後の様子が、子どもを焦点にリアルに描かれている」と感想を語っていただきました。

報告 辺野古写真展

「辺野古のたたかい

～本土では見えないほんとうの姿～

5月21日(火)～7月6日(土) プチギャラリー

県民投票で辺野古新基地建設反対の民意が明確に示されたにもかかわらず、建設工事が強行されている沖縄。美ら海、オスプレイ墜落現場、ゲート前や海での抗議活動など、現地の写真を通して、辺野古の今の姿を改めて見つめました。

(協力：一般社団法人 沖縄平和サポート)



「沖縄戦と子どもたち」の来館者アンケートから

- ・私たちと同じくらいの年れいの子も戦争に行っていたことがわかったので、今の生活に感謝したいです。(14歳)
- ・今、沖縄と政府の対立があつたりしているので、しっかりいろいろな意見を聞いて、だれもが納得できるような答えが出せるといいと思った。(14歳)
- ・貴重な資料を見ることができました。沖縄戦はまだ続いている。戦争は終わっていない。事実を知らないと、幸福すぎて忘れてしまいます。生きていることに感謝です。(71歳)
- ・戦後74年を経た現在の沖縄を見ると、あの大戦の反省がまるでなかったかのように…。2005年につくられたDVDを見せていただきながら、暗たんたる思いでした。子どもや孫たちの未来にまた過去の悲劇をくり返さないためにも、今私たちがやるべきことを日々考えていかねばと思います。(71歳)
- ・「生きる」の朗読、とてもよかったです。涙がこぼれました。阪井先生の講演では、沖縄戦について知らないことが多く、驚きました。いつも戦争は権力が号令をし、弱者が亡くなる。戦争によって血を流すようなことは、絶対にあつてはなりません。海が血の色にならないように、空が戦闘機の爆音で消される事のないよう、戦争はいけない!ことを未来ある子どもたちに伝えていきたい。今日、見たこと、聴いたこと、まわりの人に伝えていきます。(65歳)

開催中

15歳の語り継ぐ戦争

—金城学院中学生の平和新聞

7月16日(火)～9月1日(日) プチギャラリー

金城学院中学3年生の総合学習のテーマは「平和を実現する～そこには人がいる」。総合学習で学び、修学旅行の広島で自らの足と五感を使った体験を通して、見て・聞いて・感じたことを一人ひとりが一枚の壁新聞にまとめました。



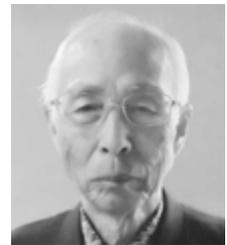
平和へのメッセージ

戦後70有余年、その時々、戦争と平和を天秤にかけてみると、日本国憲法ができた頃は、断然、平和の方が重かった。朝鮮戦争にも行かなかった。それが、だんだん戦争準備に使う金額が増えてきて、昨今は、最新鋭ステルス型戦闘機^{てんびん}を147機輸入するとか、地上配備型迎撃ミサイル2基を2400億円使って配備するとか。戦争の頃を語り継いで、天秤の傾きを見直したい。

ピースあいちでの語り継ぎは、戦争の惨禍から日本を守る一歩

竹川 日出男

(「ピースあいち語り手の会」代表)



私は日中戦争の始まった翌年1938年に生まれました。小学校へ入学する直前、45年3月19日の名古屋大空襲で中川区尾頭橋付近も爆撃に遭い、実家は焼失しました。父と長兄は軍に召集され不在でしたが、母以下8人の家族はバラバラになって火の海の中を逃げまどいました。気がついた時は5歳上の姉と二人だけでした。幼い時の一番の恐怖の思い出となっています。

この時の戦争の恐ろしさと貧しいながらもその後の平和な暮らしが、私の平和への強い思いとなったと確信しています。

私が名古屋市役所等を退職したちょうどその頃、前館長の野間美喜子さんから「ピースあいち」建設

の前に行われた「戦争資料館展」開催の協賛企画として組まれた「今こそ 平和のうたを」に、私の活動していた名大男声OB合唱団の出演が決まったのです。これが「ピースあいち」との出会いでした。

あれから15年。私は戦争体験者に、主として小中学生らにその体験を聞いてもらう事業に関わってきました。戦争を知らない子どもたちに語り伝えることこそ、再び戦争の惨禍から日本を守る一歩だとの思いからでした。

以来、「ピースあいち」のあれこれにどっぷりつかった日々が続いています。

戦争が終わった時の安堵感

國松 一平

(元名古屋市立高校教員)



昭和13年に小学校へ入り、3年後に国民学校と改称された頃から、宮城遥拝や大詔奉戴日の国旗掲揚・神社参拝の強要化と共に「米英撃滅」のスローガンが学校の玄関柱に掲示された。昭和18年9月、イタリアの無条件降伏があり、修学旅行は中止となった。

昭和19年旧制中学校へ入る。上級生は動員学徒として工場で働き、無人の如しであって、1年生も農家支援にかり出されるほどであった。

20年3月10日の東京大空襲では伯父と伯母の安否を求めて、父は上京したが、不明で帰宅した。(この東京大空襲を指揮したルメイ少将に対して、1964年、航空自衛隊を育成した功によって、勲一等旭日大綬章が贈られた。)

3月ごろから、1年生も、工場動員された。トヨタの刈谷工場である。工場の現場に入ったものの素人の生徒は迷惑だったろう。私は旋盤の鋳物の出っぱりをハンマーで叩くのだが、自分の手を叩いてしまう。でも、何とかできるようになった。

8月6日、広島に新型爆弾が投下され、続いて長崎にも投下された。8日にはソ連が満州に進入した。8月15日の玉音放送を聞き、「戦争が終わったんだ」とホッとする。

帰宅して、電灯の覆いを取り、部屋中が明るくなったのにびっくり。対岸の半田・武豊にも電気がついた。戦争が終わったんだと腹の底から思った。

平和とは「当たり前のこと」

記憶があいまいだが、かつて、手話の先生に、平和を表す手話は？と、尋ねたことがある。先生は、「あたりまえのこと」「普通のこと」と表現するといわれた。

焼夷弾で、自分の家が焼き尽くされるのを、三重県の安濃村(当時)の高台から眺めたのは、国民学校一年生の時。

六歳の私にとっては、母親に手を引かれ、爆撃を逃れたことよりも、敗戦後の長い日常生活での、住宅難、食糧難の方が、辛かった。

虱のわいた頭髪に米兵からDDTの白い粉を振りかけられた屈辱や、ひもじい思い。四人のこどもに食べさせるために、母親は、父の唯一、焼け残った礼服

山下 智恵子 (作家)



(モーニング)を質屋に入れて、甘みの抜けた種芋を買った。ふだんは温厚な父が、それを、声を荒げて、母を叱った時のこと。母が泣いて抗弁していた。

次の朝、母の姿がなかった。実家へ帰ってしまったのだ。やがてもどってきたが、両親の不和は、子ども心に、傷となって、何十年たっても、残っている。

清潔な体、衣服、食べ物、安心して眠る場所、家族の安らぎ。そうしたものが、保障されること。平和とは、まさにそうした当たり前のこと。それを、守ってゆきたい。

『子どもたちに伝えたい戦争と平和の詩100』を編んで

水内 喜久雄 (編集者)



意見も言わず質問もせず黙って座っている自分のクラスの生徒たちに対して、静岡市立東中学校二年八組「HR新聞はだかんぼ」に詩「教室はまちがうところだ」を作り載せられた蒔田晋治さん(故人)。1967年5月8日のことでした。この詩は日本中に広がり、50年過ぎた今でも全国の多くの教室で使われています。ほくもこの当時の新聞を持っていて、何回も自分が編集するアンソロジー*の中に転載させていただきました。そして、その時に「この詩が必要ない教室にしていかなくては」と蒔田さんと話したものでした。

別のアンソロジーの一つに『子どもたちに伝えたい戦争と平和の詩100』があります。その編集もとても悩

んだことを覚えています。それは「子どもたちに伝えたい戦争って何だ?」ということであり、「過去に大人が起こした戦争を子どもたちに伝えるのは恥ずかしいことではないか」ということです。「こういう本を作ること自体が平和への一歩になっている」と励ましてくれた人たちは多くいます。でも、なぜかしっくりこないのです。それならば、先輩たちの手によってすでに平和な世界になっているはずと思うのです。何が足りないかを考えながら、また、自分の仕事をしなくてはと思うのです。

*いろいろな詩人・作家の作品をある基準で選び集めた本

日本人の平和観の対外発信

たずのき 尋木 真也

(愛知学院大学法学部講師)



和を重んじる日本人は、武力による紛争解決を望まない大和魂をもっています。太平洋戦争時は、本来の日本人の価値観とは異なる欧米の帝国主義的思想を取り入れ、誤った方向に進んでしまいました。

しかし、日本人は、神話の時代から戦争を嫌い、聖徳太子の時代には、和魂漢才の精神で外来の仏教を受容し、神仏習合を果たしました。明治時代には、和魂洋才の精神で、欧米文化を日本文化に融合させ、西洋建築やクリスマスなども生活の一部になっています。

このように、日本人は、極東に位置する地政学的観点も相まって、対立を望まず、諸外国との融和を図っ

てきた歴史を有しています。こうした歴史に自信をもって、今日のヘイトスピーチや外国人の増加にも対応していくべきでしょう。和魂亜才ともいえる時代が到来しているのかもしれませんが。

また、民族・宗教対立の絶えない現代国際社会において、これからは和を尊ぶ日本人性を世界に輸出していくことが必要であるように思います。日本人は、受容が得意な一方で、発信に関しては慎ましやかな姿勢をとってきました。しかし、この受容という民族や宗教に対する寛大さを対外発信することが、日本の社会的責任となっていくべきと考えます。

報告 2019年度年次総会開かれる

NPOの年次総会が6月16日(日)に開催された。出席者は27人。昨年度の事業報告と決算報告を承認。次いで2019年度の事業計画と予算案を審議して全会一致で承認した。

このあと意見交換があり、日曜開館の検討、戦時資料の学校などへの貸し出し、会員拡大に務めることなどが話し合われた。特別展、企画展の開催に当たっては、地下鉄全駅や名古屋市の生涯学習センターなどさまざまな場所に宣伝チラシを配布し、PRに努めていることなども報告された。

この総会で、当NPOの名称を「特定非営利活動法人平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会」から最後の5文字を取って「特定非営利活動法人平和のための戦争メモリアルセンター」に変更することが決定されました。

2003年4月にNPOが設立されて以来、先の名称を使ってきました。さかのぼると、1997年に県・市が「戦争に関する資料館検討委員会」を設置し、1999年に「報告書」が出され、公的な機関による「戦争資料館」建設の方針が出されました。ところがその後設立の動きは足踏み状態になりましたので、民間・市民の立場から後押しするためにNPOが設立されました。

その後、NPOに土地と資金を提供するという申し出を受けたときに、「ピースあいち」は公的な資料館が設置されることに先立って、民立民営の資料館を設置することになりました。この時点では、あくまでも公的な資料館を求めていく立場から、名称変更は行いませんでした。そして2015年7月に「愛知・名古屋 戦争に関する資料館」がオープンしました。

公立の戦争資料館が一応は実現したことや、「ピースあいち」が設立10周年を越え、地域に根ざして、実績を積んできたことから、「設立準備会」を外そうということになりました。

**報告 「アリッサとヨシ
～絵本に託す銃なき世界～」
5月25日(土)**

1992年、服部剛丈さん(当時16歳)が留学中の米国ルイジアナ州で銃殺される事件が発生しました。以来、ご両親は米国社会に銃規制を訴えてきました。また、昨年2月に起こったフロリダ高校銃乱射事件は、銃規制強化を訴える米国高校生の運動につながっていきます。

無事だった高校生との交流を契機に、日英両国語併記の絵本『アリッサとヨシ』を刊行したご夫妻が、絵本に込められたメッセージを語り、次いで「ピースあいち」のボランティアらによる絵本の朗読、フロリダのMSD高校を訪問し絵本を犠牲者家族に手渡した清水夏波さんの報告がありました。



**報告 晴天に恵まれ「ピースあいち」開館12周年
「ピースまつり」
5月5日(日)**

前庭のテントでは、フェアトレード雑貨、産直野菜、ハンドメイド雑貨のお店が並びました。1階のステージでは、オカリナ大地、東邦高校軽音楽部女子高生のアコースティックギター、筑前琵琶の演奏、「ピースあいち」のボランティアでつくるオーリーブの朗読がありました。

玄関前でのチラシ配り兼ご案内、2階常設展や3階の企画展のガイド、搗きたて餅、お絵かきせんべい、コーヒーカフェのお店など、ボランティア総出でおもてなし。

11時のオープンから16時の終了まで来館の人が途切れることなく、「ピースあいち」12回目のお誕生日を一緒に祝っていただいていた、とても楽しい一日になりました。



■これからの企画・イベント■

peace nine展2019
9月10日(火)~9月28日(土)
アーティストトーク 9月14日(土)13時30分~15時

名古屋二期会アンサンブル研究会
ピースコンサート
9月22日(日)14時~

■お知らせ■

「愛知・名古屋戦争に関する資料館」夏休み特別企画でも、8月2日~18日の間の8日間、「ピースあいち」の語り手が「戦争体験」をお話します。詳しくは、お問い合わせください。

シリーズ

平和を守る仲間たち⑥

半田空襲と戦争を記録する会の活動

半田市は1945年7月24日に、中島飛行機半田製作所を目標とした爆撃を受けました。曇天のため、誤爆状態となり住宅地で多くの市民が犠牲になりましたが、被害調査は行われず犠牲者氏名はもちろん死傷者数も長く不明のままです。

1981年に4人の教師で出発した「半田空襲と戦争を記録する会」は、空襲犠牲者を一人ひとり明らかにする調査に取り組み、その過程で朝鮮から徴用連行された青年1,200人のうち48人の爆死がわかりました。また、動員学徒の女学生14人、女子挺身隊の13人を含む市民270人以上の空襲犠牲者があること、さらに、空襲前年1944年12月7日の東南海地震により、中島飛行機山方工場が崩壊、作業中の学徒96人を含む154人の従業員が圧死していることもわかりました。この人々も戦争災害犠牲者と考えます。

私たちは市民や関係者から募金をつのり、1995年市内の公園に戦災犠牲者432人の氏名(朝鮮人氏名は本名)を刻んだ「半田・戦災犠牲者追悼記念



碑」を建立し、毎年7月24日に碑の前で追悼式を挙行しています。

市民の戦争体験の収集活動としては半田市の支援も得て5冊の証言集を出版、継承活動として市主催の戦跡見学会のガイドや小学校の出前平和授業の講師派遣をしています。最近「戦争と平和を考えるつどい」の開催に力を注いでいます。本年5月は「知多の戦争を伝えよう!」と題する映像・講演・証言の会に市民70人が参加、日本福祉大学から学生10数人の参加もあり、体験世代から若い世代への継承が実現した集会となりました。知多半島の戦跡案内も行っていますのでご希望の方はご連絡下さい。 TEL 0569-22-6848 佐藤 (半田空襲と戦争を記録する会代表 佐藤 明夫)



ボランティアの窓

祖父に思いを寄せて

原田 拓郎

私の母方の祖父は中国と南方に出征しました。胸に入れていたお守りの木札で弾が止まったため、九死に一生を得て復員しました。その後、祖母と結婚したので、いまの私があります。生まれる前に亡くなったため、いろんな話を聞けなかったのがとても残念です。



戦地での写真を多く残しており、詳細に記した軍隊手帳をもとに、足跡をたどって形にしたいと考えていますが、まだ取りかかれずにいます。

また、それぞれのルーツを顧みれば、必ずどこかに戦争は存在していて、そこに思いを馳せることは、戦争をよりリアルなものとして捉えられるのではないのでしょうか。

いつかそんな企画展を提案できたらと考えています。

ボランティアを始めて3年目

大久保 勝子

だいたい3年目という浮気をするらしいが。

私は、どうもこの人達にずんずん魅かれています。

「ピースあいち」は、合理的に編成されたそれぞれの持ち場で、完成を目指す人達の目線の先にある「平和への希求の普遍性」という「静かなマグマ」が感じられる「場」だからだ。

私たちのピースあいち朗読会「オリーブ」も、名作を選び出し、声を使って伝える作業だ。「やっごらん」と言われて3年目、「戦争の中のこどもたち展」の企画にあわせて、こどもが平和の大切さを感じられる「秋の朗読会」を今年の秋10月26日(土)午後2時～3時に開催します。私達は未熟ですが、多くの方々に傾聴していただけたらたいへん嬉しく思います。



資料館探訪 24

平頂山資料館—住民虐殺事件

中国東北地方の撫順炭鉱に隣接したところに平頂山がある。東西を小高い丘に囲まれた窪地の村である。ここで、1932年の夏に日本軍による村民虐殺事件が起きた。これを平頂山事件という。

抗日ゲリラ軍が日本軍に対抗していた。日本軍は平頂山の住民がゲリラと通じていると断定し、攻撃した。1932年9月16日早朝、3台のトラックに乗った日本軍が急襲し、目も覚めやらぬ住民を集め、機関銃で掃射殺害し、死体は油をかけて焼却し、ダイナマイトで崖を崩して、土石の下に死体を埋めた。死者数については諸説あるが、平頂山村落がほぼ壊滅したことは事実である。

この事件を残すためにつくられたのが、「平頂山惨案纪念馆」である。事件の経過、事件の写真と説明などが展示されている。

一面に「平頂山惨案遺跡」がある。ダイナマイトで死体が埋められた場所である。そこを発掘し、折り重なった人骨がそのまま保存されている。あまりにもリアルでショックを受けた。(N)



月一回の発行で「ピースあいち」の活動がタイムリーにわかる「ピースあいち・メールマガジン(無料)」。「ピースあいち」のホームページからお申し込みください!

ぜひ「ピースあいち」の会員に!

「戦争と平和の資料館ピースあいち」は、NPOの総会も終わり、宮原館長のもと開館13年目の活動がスタートしました。7月16日からは夏の特別企画「水木しげるの戦争と新聞報道」が始まりました。

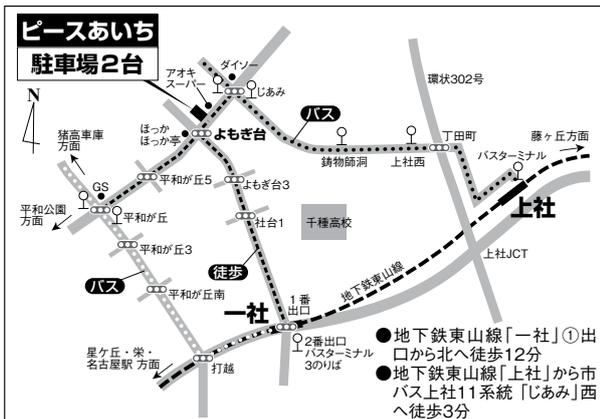
「ピースあいち」の基本財源は、入館料(大人300円・子ども100円)と会員の皆さんの年会費(正会員6000円・賛助会員3000円)です。来館者数は、開館した2007年は約12,000人、以後は6,000人前後で推移してきました。

現在会員数は873名(正会員371名・賛助会員502名)ですが、「ピースあいち」の年間経費約1,200万円には大きく足りません。不足分は不確定な寄付金や助成金に頼っているのが現状です。自主財源の確立は、まず会員の拡大です。ぜひ多くの方に会員になっていただき「ピースあいち」を支えてくださいますよう、お願い申し上げます。

【利用案内】

- 開館日 火曜日～土曜日
- 開館時間 午前11時～午後4時
- 休館日 日曜日・月曜日・
夏季休館(9月2日～9日)
- 入館料 大人 300円 小中高生 100円
- 常設展示「愛知県下の空襲」「戦争の全体像・15年戦争」「戦時下の暮らし」「現代の戦争と平和」、
準常設展示「戦争と動物たち」「戦争と子どもたち」。ほかに、図書や戦争体験DVDのライブラリーもあります。
- 学校や団体の見学で、展示ガイドや体験談を希望される場合は、事前にご相談下さい。
- 駐車場は2台分あります(300円)。他に障がい者用が1台分あります(無料)。

交通のご案内



●編集後記●

「ピースあいち」には、およそ100人のボランティアがいる。このうち、5～6人が交替で館に詰めている。「火曜班」とか「金曜班」と呼んでいる。入口受付で入館料をいただいたり、2、3階にいて来館者の問いに答えたりしている。

また、仕事を分担するために、ボランティア班、広報班、資料班などの24のチームがある。この『ニュース』の編集スタッフもその一つである。この他、特別展、企画展などを催す時には新たなチームが作られる。当館の管理・運営・PRはボランティアの皆さんが支えている。(S)